



2024年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年5月2日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東
コード番号 4772 URL <http://www.streammedia.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 東佑
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画部門長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118
四半期報告書提出予定日 2024年5月15日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第1四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	3,056	11.2	232	23.6	236	25.5	201	17.1
2023年12月期第1四半期	2,747	134.0	188	—	188	—	172	—

(注) 包括利益 2024年12月期第1四半期 160百万円 (△80.4%) 2023年12月期第1四半期 821百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第1四半期	1.74	—
2023年12月期第1四半期	1.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期第1四半期	13,904	7,395	47.5
2023年12月期	12,675	7,210	50.7

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 6,609百万円 2023年12月期 6,431百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年12月期	—	—	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,138	2.5	91	△50.0	94	△50.8	61	△76.7	0.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期 1 Q	115,904,831株	2023年12月期	115,904,831株
② 期末自己株式数	2024年12月期 1 Q	9,846株	2023年12月期	9,846株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期 1 Q	115,894,985株	2023年12月期 1 Q	115,894,156株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループに関連する市場につきましては、コンサート市場については大型コンサートの開催数および動員数は増加傾向にあり、コロナ前の水準まで戻りつつあります。メディア業界では多チャンネルサービス加入世帯（ケーブルテレビ等の視聴世帯）は減少しているものの、OTTサービス等、新しいメディアの利用は増加しています。特に韓国コンテンツの人気は堅調で、新作のみならず旧作の視聴ニーズも高い状況が続いています。

このような経営環境の中、当社グループの当第1四半期連結累計期間におきまして、エンターテインメント事業ではドーム等の大型公演を中心に計16公演のコンサートを行い、前年同期（約32万人動員）を大きく上回る約55万人の動員を達成し好調なスタートを切りました。特に大きな公演としては、エスエム・アーティストが一堂に会する「SMTOWN LIVE 2024 SMCU PALACE @TOKYO」（以後、「SMTOWN LIVE」）を1年半ぶりに東京ドームで開催し、計2公演で約10万人を動員しました。

ライツ&メディア事業では、ライツ事業においてはアーカイブ作品の販売を強化しており、地上波およびBS・CS放送やOTTサービスへの版權販売を継続的に行っています。放送事業ではKNTVにてKPIに掲げているK-POPプレミアムコンテンツを計5作品放送し、視聴世帯数が前年同期の水準まで回復したため視聴料収入が増加しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,056百万円（前年同期比11.2%増）、営業利益は232百万円（前年同期比23.6%増）、経常利益は236百万円（前年同期比25.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は201百万円（前年同期比17.1%増）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

(エンターテインメント事業)

コンサート事業においては、大型コンサートを中心に16公演開催し、約55万人を動員しました。2月21日と22日に東京ドームにおいて「SMTOWN LIVE」を開催し、2月24日と25日にも同会場にて「SHINee WORLD VI [PERFECT ILLUMINATION] JAPAN FINAL LIVE in TOKYO DOME」を開催しました。両公演はそれぞれ2公演行われ約10万人ずつ動員しました。またNCT 127の東名阪ドームツアー「NCT 127 3RD TOUR 'NEO CITY : JAPAN-THE UNITY」では計6公演が行われ約26万人を動員しました。

MD事業ではコンサート動員数の増加を主な要因としてコンサートグッズの販売が好調に推移した他、当初の事業計画に追加してポップアップストアを展開したため、計画を超える収益を生んでおります。ポップアップストア「RIIZE UP@TOKYO」はRIIZEの日本デビュー前にも関わらず開催告知当日に予約が完売するほど注目度が高く、今後の日本での活動が期待されます。その他にもSHINeeとJOGUMANがコラボしたポップアップストア

「SHINee×JOGUMAN POP-UP」やaespaの展示会「#potd #aespa」等も開催しました。

音楽事業では日本を中心に活動する予定のNCT WISHが2月にデビューシングル「WISH」をリリースし日韓同時デビューしました。その他には2023年9月に行われたNCTのスタジアムライブ「NCT STADIUM LIVE 'NCT NATION : To The World-in JAPAN」や東方神起のファンクラブイベント「2023 WHITE GARDEN」等、4作品のDVD、Blu-ray作品を発売しました。

音楽事業以外(その他)の活動におきましては、新たな事業として東京タワー（RED° TOKYO TOWER 5F NETGEAR RED° ARENA）にてaespaのVRコンサート「LYNK-POP : THE 1st VR CONCERT aespa」を前述の展示会と共に開催しました。本イベントではVRコンサートの他にコラボカフェの展開と衣装の展示も行われました。また前述の「SMTOWN LIVE」とTAEMIN（SHINee）による「TAEMIN SOLO CONCERT : METAMORPH in Japan」のライブビューイングを全国の映画館で実施しました。

エンターテインメント事業では、コンサート事業での大規模動員に加え、周辺ビジネスの展開も順調に推移したため、売上高・利益共に昨年同期を上回り全体の業績を大きくけん引しました。

この結果、売上高は2,419百万円（前年同期比20.9%増）、セグメント利益は305百万円（前年同期比30.1%増）となりました。

(ライツ&メディア事業)

メディア事業においては、合併によるシナジーを活用したK-POPプレミアムコンテンツの放送に注力しており、2月にソウルで行われた「SUPER JUNIOR-L.S.S. THE SHOW : Th3ee Guys」や、「SMTOWN LIVE」の生中継放送を含む計5作品を放送しました。KNTVでは従来、韓国ドラマを中心に編成をしておりましたが、K-POPプレミアムコンテンツの放送によりドラマファンのみならずK-POPファンの新規獲得も図っています。当第1四半期においてはKNTVの加入者数が前年同期の水準まで回復しました。またコンサート放送権を放送事業者に販売する事業を展開した結果、売上・利益共に前年同期の実績を上回りました。

ライツ事業では、地上波放送局で特に需要の高い時代劇ドラマの獲得に力を入れており当第1四半期連結累計期間においては新作時代劇ドラマ「世子(セ ज्या)が消えた(原題)」を獲得し販売しました。またドラマのみならず、チェ・ジウ主演の韓国映画「NEW NORMAL」も獲得しました。アーカイブ作品の販売にも引き続き注力しており、「哲仁王后～俺がクイーン！？～」、「愛はビューティフル、人生はワンダフル」が放送される等、各種地上波、BS・CS放送にて当社が保有するアーカイブ作品が多数放送されています。一方、前年のような新規OTTサービスへの大型納品等がなかったため、昨年比では売上と利益が共に減少しています。

この結果、売上高は637百万円(前年同期比14.5%減)、セグメント利益は90百万円(前年同期比21.9%減)となりました。

(その他事業)

その他事業では、売上高は0百万円(前年同期比99.9%減)、セグメント損失は2百万円(前年同期は9百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は13,904百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,228百万円増加いたしました。流動資産は11,716百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,289百万円増加いたしました。その主な要因は、現金及び預金が276百万円、売掛金が1,170百万円増加したことによるものであります。また、固定資産は2,187百万円となり、前連結会計年度末に比べ60百万円減少いたしました。その主な要因は、投資有価証券が59百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債は6,509百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,044百万円増加いたしました。流動負債は5,887百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,065百万円増加いたしました。その主な要因は、買掛金が900百万円、その他が234百万円増加したことによるものであります。また、固定負債は621百万円となり、前連結会計年度末に比べ20百万円減少いたしました。その主な要因は、繰延税金負債が20百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産は7,395百万円となり、前連結会計年度末に比べ184百万円増加いたしました。その主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益201百万円により利益剰余金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期の連結業績予想につきましては、2024年2月6日の「2023年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。今後、状況の進展や事業動向等を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,413,639	2,690,151
売掛金	5,077,680	6,248,089
商品	18,049	10,009
番組勘定	452,288	399,277
コンテンツ事業権	1,466,363	1,386,567
前渡金	70,242	293,573
その他	928,034	688,472
流動資産合計	10,426,298	11,716,141
固定資産		
有形固定資産	22,594	21,514
無形固定資産	15,221	14,139
投資その他の資産		
投資有価証券	2,115,314	2,055,636
長期貸付金	96,577	93,577
繰延税金資産	48,458	48,458
その他	53,611	57,481
貸倒引当金	△102,851	△102,851
投資その他の資産合計	2,211,111	2,152,302
固定資産合計	2,248,926	2,187,956
資産合計	12,675,225	13,904,098
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,073,593	4,973,770
契約負債	103,332	70,296
賞与引当金	35,817	-
その他	608,606	843,009
流動負債合計	4,821,350	5,887,076
固定負債		
繰延税金負債	626,291	605,648
その他	16,616	16,301
固定負債合計	642,908	621,949
負債合計	5,464,258	6,509,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,042,188	6,042,188
資本剰余金	3,439,214	3,439,214
利益剰余金	△3,900,086	△3,698,596
自己株式	△33,123	△33,123
株主資本合計	5,548,193	5,749,683
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	883,430	860,192
その他の包括利益累計額合計	883,430	860,192
新株予約権	385,752	409,074
非支配株主持分	393,589	376,121
純資産合計	7,210,966	7,395,072
負債純資産合計	12,675,225	13,904,098

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
売上高	2,747,741	3,056,701
売上原価	2,155,114	2,395,656
売上総利益	592,627	661,045
販売費及び一般管理費	404,485	428,496
営業利益	188,142	232,548
営業外収益		
受取利息	462	463
為替差益	—	3,442
業務受託料	483	378
その他	16	8
営業外収益合計	961	4,292
営業外費用		
支払利息	—	17
為替差損	441	—
その他	3	—
営業外費用合計	445	17
経常利益	188,658	236,823
税金等調整前四半期純利益	188,658	236,823
法人税、住民税及び事業税	20,890	37,004
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	20,890	37,004
四半期純利益	167,768	199,819
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4,256	△1,670
親会社株主に帰属する四半期純利益	172,024	201,489

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)
四半期純利益	167,768	199,819
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	653,652	△39,035
その他の包括利益合計	653,652	△39,035
四半期包括利益	821,420	160,783
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	561,140	178,251
非支配株主に係る四半期包括利益	260,280	△17,468

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテインメント 事業	ライツ&メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,001,508	746,040	2,747,548	193	2,747,741
外部顧客に対する売上高	2,001,508	746,040	2,747,548	193	2,747,741
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	2,001,508	746,040	2,747,548	193	2,747,741
セグメント利益又は損失(△)	235,023	115,608	350,631	△9,396	341,235

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	350,631
「その他」の区分の利益	△9,396
全社費用(注)	△153,093
四半期連結損益計算書の営業利益	188,142

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	エンターテインメント 事業	ライツ&メディア 事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,419,007	637,694	3,056,701	0	3,056,701
外部顧客に対する売上高	2,419,007	637,694	3,056,701	0	3,056,701
セグメント間の内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-
計	2,419,007	637,694	3,056,701	0	3,056,701
セグメント利益又は損失 (△)	305,721	90,255	395,976	△2,918	393,057

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、カラオケのアプリ事業を行っていましたが、当第1四半期連結会計期間において事業を終了しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	395,976
「その他」の区分の利益	△2,918
全社費用(注)	△160,508
四半期連結損益計算書の営業利益	232,548

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。